

科目名称：	社会的養護Ⅱ	
担当者名：	水野 成	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	2
授業の目的・テーマ		
<p>「社会的養護」という概念は、狭義としては、「児童養護」をさす場合が多いと思われませんが、その理念は、社会福祉全般（児童家庭福祉・障害者福祉・高齢者福祉）に共通するものだと考えられます。</p> <p>ここでは、「社会的養護原理」を実際の場面でどう展開していけばよいのかを明らかにして、より実践的な方法論をカンファレンスの形式で検討し討議することで、確かな児童家庭福祉実践者としての姿勢を確立していきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>これまでの実習での「子ども」のケースを整理し、記録しながら、グループでのカンファレンス、授業全体でのカンファレンスを実施し、「子ども」「保護者・家庭」「保育者」の課題について検討できる。自らのこれまでの実践を振り返り、柔軟な姿勢で取り組める。保育者としての「子ども観」「保育観」「人間観」へとつなげる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)	50		30	20	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設 支援員	《経験年数1》 32年10ヶ月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業内プレゼンテーション及びレポート	授業の内容をよく理解し、自分の意見を適切に表現できる	授業の内容を理解し、表現できる	授業の内容を理解している	授業の内容が理解できていない
参考プリント	事前によく読んでいて内容がよく理解できている	授業内での説明が理解できている	参考にして読んでいる	読んでいない
まとめ	社会的養護の理念や制度についてよく理解している	社会的養護の理念や制度について理解している	社会的養護の基礎は理解している	社会的養護について理解できていない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 社会的養護Ⅰのまとめ	養護Ⅰのテキスト・ノートを復習しまとめておく。	40分
第2回 子どもの権利擁護	児童憲章を読んでまとめておく。	20分
第3回 施設の暮らし①施設入所について(グループディスカッション)	養護Ⅰから各種施設の概要をまとめておく。	20分
第4回 施設の暮らし②施設の生活について(グループディスカッション)	養護Ⅰから各種施設について第4回の内容をまとめておく。	20分
第5回 入所児童の状況	養護Ⅰから入所型(居住型)を知る。	20分
第6回 子どもへの対応(被虐待児、障害児)	虐待を受けている子供の状況や虐待防止のしくみをまとめておく。	30分
第7回 自立支援①基本的理解	テキストや参考資料を読んでまとめておく。	30分
第8回 自立支援②自立支援の実際	テキストや参考資料を読んでまとめておく。	30分
第9回 家族や里親等との関わり(グループディスカッション)	里親制度に関しテキストや参考資料を読んでまとめておく。	20分
第10回 障害のある方への支援(プレゼンテーション)	事前配布資料をもとに、参考資料を読んでまとめておく。	20分
第11回 保育士や支援者という役割①対象者の理解	実習記録をもとにテーマに沿ってまとめておく	30分
第12回 保育士や支援者という役割②職業倫理、自己覚知	実習記録をもとにテーマに沿ってまとめておく	30分
第13回 保育士や支援者という役割③人と人のかかわりを職業とすること	実習記録をもとにテーマに沿ってまとめておく	30分
第14回 保育士や支援者という役割④連携、協働、ネットワークの構築	テキストや参考資料を読んでまとめておく。	30分
第15回 社会的養護の課題と展望	テキストや参考資料を読んでまとめておく。	20分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 中間の提出レポート(1~2回)30%、グループワーク等の学習態度・積極性20%		
課題に対するフィードバック		
各回の講義・演習の最後に振り返りをさせ、次時に生かす。 振り返り内容については2~3回のノート点検によって確認する。		
教科書・参考書		
みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ 喜多一憲 堀場純矢 みらい		